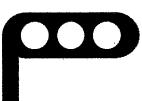


社会・人文 ご担当者さま

# 世に資する 信号電材株式会社の50年

糸永康平

〔編著〕

知っていますか?  
作っているか  
誰が  
交通信号は  


2023年7月21日刊 発行所 石風社  
定価:2750円(本体2500円+税)  
A5判上製 本文254頁  
ISBN978-4-88344-321-5 C0034

歩行者と車の安全安心を守って50年。  
かつて炭鉱で栄えた 福岡県大牟田市  
その地方都市に  
全国50%のシェアをもつ  
信号機器製作の会社がある

>>> プロフィール

糸永康平(いとなが こうへい)

1955年福岡県大牟田市に生まれる。

1979年長崎総合科学大学卒業、

信号電材株式会社に入社。

1992年専務取締役、2005年から

信号電材株式会社代表取締役社長。

SD Lighting株式会社社長を兼務



## 【信号機小史】

交通信号機はなぜできたのか?

理由はシンプルである。

交通事故を防ぐためにできたのである。

とは言っても、最初にできたのは車のためではない。馬車による事故を防ぐために1868年(明治元年)にロンドンで設置されたのが世界最初といわれる。日本には1919年(大正8年)、手動式の信号機が設置された。しかし交通整理の初めは警察官の「挙手」による手信号である。次いで信号機が設置され、スヌメ、トマレ、と記された手動の「標版」になった。しかし民衆の理解が進まず却って混乱し、手信号に戻したりしたという。車や路面電車の増加とともに自動式の信号機に変わってゆくが、昭和30年代は、交差点での手信号がまだまだ幅をきかせていた。

信号機の役割は、まず歩行者の安全を守ることだが、モータリゼーションの発展とともに、いかに車の流れをスムーズにして、交通事故を防止するかということに注力されるようになった。

交通信号は今や空気のような存在だが、車社会においては、市民の「安全安心」を守るために必須のインフラである。

参考・「交通信号50年史」(交通管制施設協会 昭和五〇年)

\* ----- \*

ご注文書	注文	日付	ご担当	ISBN978-4-88344-321-5
【貴店番線印】				世に資する 信号電材株式会社の50年 糸永康平 編著 定価：2750円(税込)
取扱	地方小出版流通センター、鎌谷書店、きんぶん図書を通じて全ての取次ルートに対応しております。	冊	様	石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24ダイレイ第5ビル5階 092(714)4838

【ご注文は石風社 FAX:092(725)3440まで】